

氏名 よし しば み き 教授



主な研究テーマ

- 本学1年次対象の英語テストの結果分析
- 海外遠征アスリートの英語学習支援ソフトの開発

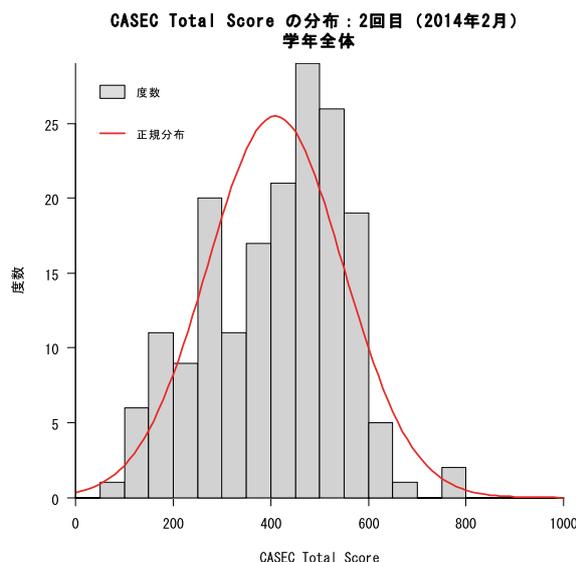
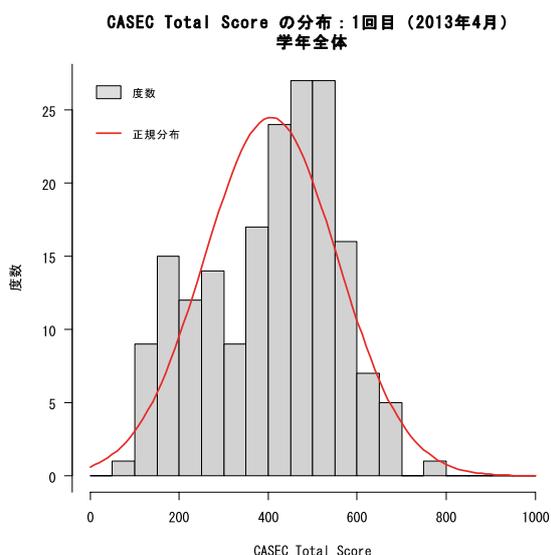
平成26年度の研究内容とその成果

1) 本学では平成26年度4月から新カリキュラムが始まりました。新カリキュラムでは、従前の4単位必修(英語)が8単位必修に、また学年全体を5レベル6クラス(基礎①、基礎②、初級A、初級B、初級C、中級)に分け指導する習熟度別クラス編成になりました。平成25年度に英語のプレイスメントテストを筆記形式からコンピュータ利用の「英語コミュニケーション能力判定テスト(CASEC)テスト」に変更しま

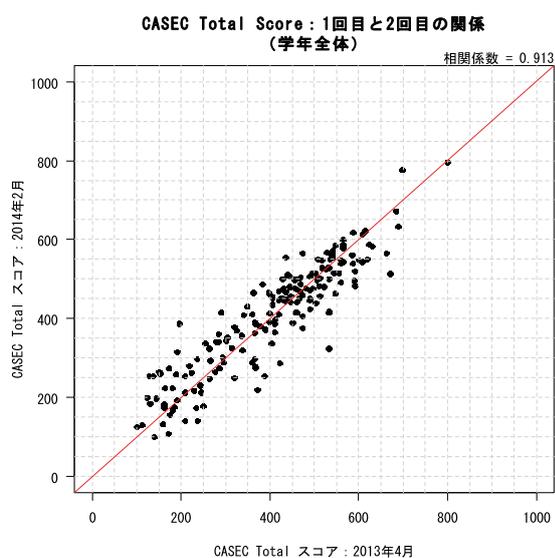
した。平成26年度は25年度実施した英語プレイスメントテスト(4月)とアチーブメントテスト(2月)の結果を分析・考察しました。

下記の左は全体(n=178)の4月プレイスメントテスト結果をグラフにしたもので、右は2月実施のアチーブメントテストの結果です。

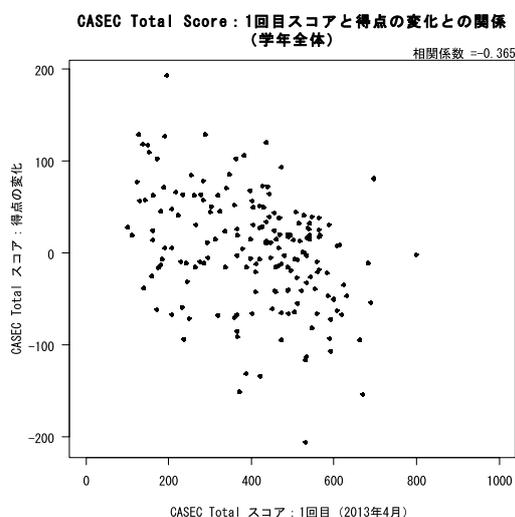
両テストともに正規分布する1つの集団ではなく、異なる集団が混ざり合っており、標準的な学生が少ないと言えます。



下記は、X軸に4月のプレイスメントテスト結果を、Y軸に2月のアチーブメントテスト成績を記した相関関係のグラフです。学年全体については相関係数0.913と、PRE（4月）とPOST（2月）にかなり高い相関関係が認められます。



次は、4月テストから2月テストの変化量を見るために、X軸に4月テスト結果を、Y軸に得点の変化量（POST-PRE）を示したグラフです。



グラフを見ると、相関係数は -0.365 と1回目の得点が高い学生の得点変化は低く、4月テストの下位得点群は2月テストで大幅に伸びていますが、得点が高くなるにつれ伸び率は下がっています。一年間の変化については、集団としては4月入学時の能力を2月時点でも維持しているようです。またテスト結果の分布から、2つの課程でその傾向に違いが見られることも判りました。

今後は、この結果を新カリキュラムの習熟度別クラスの結果と比べ、英語教育の改善に役立てたいと思います。

2) 海外遠征アスリートの英語学習支援ソフトの開発

平成23年度に始まった科研の最終年度、海外で開催される自転車競技大会の申込書や国内で海外講師を招いて行われたヨットの講演の録画等を収集できました。映像等を含んだ教材開発のため、動画中心のe-learning教材を購入し、英語の授業だけでなく、現在本学の国際競技大会特別強化指定選手等（自転車、カヌー部）に使用してもらっており、使用した選手等からのフィードバックを教材開発の参考にする予定です。